

開設講習名	【選択】歴史学習の意味を考える		講師	岩崎 好成・森下 徹	
講習会場	山口大学吉田キャンパス		会場所在地	山口県山口市	
開設日	平成 29 年 6 月 11 日		時間数	6 時間	受講予定人数 50 人
受講者募集期間	平成 29 年 4 月 7 日～平成 29 年 4 月 15 日		履修認定時期	平成 29 年 8 月 10 日まで	
履修認定対象職種	教諭	主な受講対象者	小学校教諭, 中学校社会科教諭		
受講料等総額	6,000 円	(うち受講料以外の経費)			
【到達目標】 (1) “歴史学習からの学び、の多様性とそれらが持つ意味を理解する。 (2) 史料に即して、歴史（近世社会の特徴）を把握する。					
【講習の概要】 (1) 「歴史を学ぶと何が得られるのか、何かの役に立つのか」、あるいは、「歴史学習からは出来事それ自体以外にどのようなことが学べるのか」という問いに対する回答を考えていく。そこから、歴史学(習)の意味（あるいは意味ある歴史学習）について検討する。講習は以下のような諸項目から構成される。 *言及する事例の大半は小学校 6 年教科書から選択 ①「役にたたない＝無意味」という発想の否定。基礎学としての歴史学ならではの学び ②歴史学的手法（＝ルール）を踏まえてこそ得られる学び ③卑弥呼、家光と「支配」― “歴史で学ぶ、”ということ ④児童・生徒（そして私たち）の<常識><自明>に揺さぶりをかける歴史学習 ⑤長登銅山で考える多様な学び―地名の「由来」、地域の「誇り」、・・・ *特に②や③や④は、以下の近世史学習・研究と接合する “学び、”となる。 (2)後半では、近世史に焦点を絞って、その社会像について近年の研究を紹介しつつ検討する。かつては封建的な抑圧の時代として専らとらえられてきたのがこの時代であり、年貢負担、慶安の触れ書による統制、士農工商という厳しい身分制度、などがそのキーワードとなっていた。しかしこれらの事項はいずれも再検討が必要となっている。他方で、平和を謳歌した泰平の世であって、人々が自由闊達に暮らしていた、といった江戸時代像が主張されることもある。こうして「暗い近世」と「明るい近世」という両極端な像に分裂するのが特徴であるように思う。それらを意識しつつ、以下の3つの点に絞って近世社会の特徴を学習する方法を考えてみたい。 ①身分社会の成り立ち ②幕府と藩との関係 ③「伝統社会」としての近世社会					
【評価の方法・評価基準】 評価の方法：筆記試験 評価基準：講習内容を理解し、説明できるか否か					
【テキスト・参考文献】 事前にテキスト(資料)を配布予定。					
【受講者への伝達事項】 特になし					